



新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会



部会報告



メニュー

- ◆ **【1】 鯖江市の概要**
- ◆ **【2】 鯖江市の特性(課題)**
- ◆ **【3】 懇話会からの提言**
- ◆ **【4】 検討**
- ◆ **【5】 主な意見**
- ◆ **【6】 部会からの提言**
 - ① JR鯖江駅周辺に賑わいの拠点をつくる
 - ② 西山公園の観光拠点化
 - ③ 鯖江のまちなかコンパクトタウン ～拡大志向から等身大の温かみのある街へ～
 - ④ 屋台村の設置(「めがね横丁」「鯖江横丁」)
 - ⑤ 公共交通の相互連携
 - ⑥ わかりやすく効率的なバス路線網の構築
 - ⑦ ICカードシステムの導入
- ◆ **【7】 おわりに**

【1】鯖江市の概要

- ・人口 → 68,933人(H27.2現在)
- ・面積 → 84.75km²(東西約19.2km、南北約8.3km)
- ・地勢 → 福井県のほぼ中央に位置し、北は福井市、南は越前市に隣接している。南北に幹線が3本縦断しており、市の中央部の丘陵地に沿って、両側に国道8号線と西縦貫線、中央部を福井鉄道福武線、東側を北陸自動車道、JR北陸本線が走り、日野川が北方に向かって流れている。
- ・交通 → 鉄軌道：JR北陸本線、福井鉄道福武線
バス：福鉄バス(福浦線・鯖浦線)
コミュニティバス(つつじバス)
高速バス(京福バス、福鉄バス、JRバス、名鉄バス、阪急バス)

【2】鯖江市の特性(課題)

- ◆ 人口は減少傾向
- ◆ 少子高齢社会の進展
- ◆ 低密度な市街地
- ◆ 観光資源が少ない
- ◆ 過度な自動車依存と公共交通の衰退

【3】懇話会からの提言

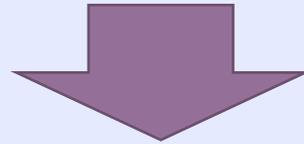
< 視点 >

「まちづくり」

「公共交通」

「産業と観光」

「その他」



- ◆ 高速交通体系とのアクセス強化による利便性の確保
- ◆ 鯖江に訪れたくなるような魅力の創出
- ◆ 「めがねのまちさばえ」の積極的な発信
- ◆ チタン加工技術を活かした新しい分野への進出による新たな魅力あるまちづくりの検討
- ◆ 市民との協働による「鯖江のへそ」づくり

【4】検討

【テーマ】 公共交通を活かした鯖江のまちづくり

- H26. 6.19 懇話会および部会の合同会議
- H26. 7.31 部会リーダー視察(熊本県熊本市)
～ 8. 1
- H26. 9.25 部会視察(富山県富山市)
- H26.11.11 第1回 ワークショップ
- H26.11.12 第2回 ワークショップ
- H26.12.16 第3回 ワークショップ
- H26.12.24 第4回 ワークショップ
- H27. 1.23 第5回 ワークショップ
- H27. 2. 2 第6回 ワークショップ



【5】主な意見

◆ 西山公園・道の駅・観光

- ・観光客が鯖江を観光の目的地にする人は少ない
- ・サンドーム福井と西山公園や道の駅との連動性がない
- ・西山公園から中心市街地への流れも少ない
- ・西山公園に駐車場が少ない
- ・夜の西山が楽しめる仕掛けがあるとよい(夜Zoo、大規模なライトアップ等)
- ・西山公園に新幹線が見えるビュースポットを設置
- ・鯖江への訪問目的は、メガネを中心とした地場産業や食である
- ・外国人観光客が少ない

◆ 中心市街地

- ・まちなかに空き家、空きスペースが増えてきている
- ・後継者のいない店が目立つ
- ・若者が集まるような店舗が少ない
- ・市街地の高齢化が進んでいる
- ・閉店が早く、活気が感じられない
- ・誠市、ご縁市は定着し、賑わっている
- ・学生からお年寄りまでは、自由にくつろげる無料スペースがあるとよい

【5】主な意見

◆ 公共交通

<JR>

- ・ビジネスマンを受け入れるため、JR北鯖江駅の整備が必要(薄暗く、汚い)
- ・JR鯖江駅の東側に改札を設ける
- ・北陸本線の三セク化による利用者減(観光客減)が心配

<コミバス>

- ・すべての路線の拠点となるバスターミナルが必要
- ・鯖江は東西に長い スムーズに移動ができるようダイヤの検討
- ・速達便の運行
- ・観光地を巡る便の運行(めがね会館、うるしの里会館 等)
- ・バス停や行き先が分かりにくい
- ・早朝、夜行便を検討すべきである(通勤・通学)
- ・割引乗車券の導入(富山市の「おでかけ定期券」 等)

<福井鉄道>

- ・古い車両が乗りにくい(ステップが急)

【5】主な意見

◆ その他

- ・まちづくりには、まず人の流れをつくり、民間が反応する仕組み作りが重要
- ・JR鯖江駅東に拠点となる施設ができれば、道の駅とつないで人通りが生まれる
- ・人口が少ないことが、衰退の原因である
- ・福井市や越前市へのアクセスの便利さを強調し、人口増につなげる
- ・サンドーム福井の有効利用(コンサート、イベント等)
- ・働き口が少ない(大企業が少ない) → 企業誘致が重要
- ・宿坊と伝統産業の連携
- ・宣伝(PR)が足りない → テレビCMの活用
- ・鯖江の「食」をテーマとしたまちづくりの検討
- ・鯖江は飲食店が分散している 県外客にわかりやすいよう1か所に集約

【6】部会からの提言

① JR鯖江駅周辺に賑わいの拠点をつくる

【現状】

- ・ 駅の西側と東側が線路で分断されており、駅周辺の一体感がない
- ・ 駅周辺に魅力がないため、活気が感じられない
- ・ 駅西の空きスペースが少ない
- ・ コミバスの乗り場がわかりにくい

【課題】

- ・ 駐車スペースの確保
- ・ 老朽化した駅周辺施設の改修
- ・ サンドーム利用客の中心市街地への誘導
- ・ 既存商店街との連携
- ・ 鯖江のPR（地場産業等）



【提言】

- ・ 駅西、駅東の一体的整備（駅西：バス利用者、駅東：車利用者）
- ・ 駅東に全天候型多目的施設、駅西にバスターミナル（待合所屋根付）を整備
 - ＜多目的施設＞
 - 1階 : コンビニ、ファストフード店、飲食店、お土産店等
 - 2～3階 : 商業施設（漆器、めがね等地場製品のショップを組み込む）
 - 4階 : イベント広場
 - 5階・屋上 : 駐車場スペース
- ・ 駅舎の機能強化（駅東と駅西を結ぶ連絡通路の設置、駅東に改札新設）

② 西山公園の観光拠点化

【現状】

- ・ イベント時には、多くの観光客が訪れる
- ・ 平日でも、遠足などで市内外から多くの人々が来場している
- ・ 市民の憩いの場として、有効に利用されている
- ・ 道の駅はできたものの、若者の集まるような商業施設が少ない

【課題】

- ・ 駐車場不足
- ・ 嚮陽会館の老朽化
- ・ 動物園の規模が小さい
- ・ 経済効果が小さい



【提言】

- ・ 嚮陽会館・道の駅・西山公園の一体的活用（共同イベント開催等）
- ・ 嚮陽会館を改修し、商業施設と多目的スペースを併設した複合施設の整備
→ 若者が集う店舗の誘致
- ・ 「道の駅」の機能強化
→ 「地場産品」や「鯖江の食」を発信、体験できるスペースをつくる
- ・ 西山公園と鯖江ICを結ぶ直通道路の早期実現
- ・ 西山動物園の規模拡大（開園時間の延長）
- ・ 楽しい案内看板の設置

③ 鯖江のまちなかコンパクトタウン ～拡大志向から等身大の温かみのある街へ～

【現状】

- ・ まちなかに、空き家や空きスペースが多い
- ・ 中心市街地の高齢化が進んでいて、後継者がいない
- ・ 新規出店が進まない
- ・ 誠市、ご縁市は定着している

【課題】

- ・ 新規店舗の誘致・出店のしやすい環境づくり
- ・ 建築物の老朽化
- ・ 歴史的建造物（誠照寺 など）が、高いビルの陰になり目立たない
- ・ 中長期的なまちづくりプランの計画、実行（5～15年）

【提言】

- ・ 中心市街地の規模を、昭和30～40年代頃のようなコンパクトなものに
→ 投資の集中を図り、徒歩での回遊性を高める
- ・ 景観を活かしたまちづくり
→ 歴史的建造物が目立つよう、中心市街地の建物の高さ制限を行う
- ・ まちなかスペースの再活用
→ 空き家のリノベーション（少ない出資での新規出店を支援）



④ 屋台村の設置(「めがね横丁」「鯖江横丁」)

【現状】

- ・ 空き家、空きスペースが目立つ
- ・ 若者向けの店が少ない
- ・ 閉店時間が早く、まちに活気がない
- ・ 新規出店が進まない
- ・ 鯖江の特産品を購入できる場所が分かりにくい

【課題】

- ・ 駐車スペースが少ない
- ・ 商店街の店舗が住宅と併設となっているため、計画が難しい
- ・ 大規模な投資

【提言】

- ・ 中心市街地の路地(通り)を活用し、屋台村を整備
→ 地元の人と観光客が集える場所づくり (例)湯けむり横丁(あわら市)
- ・ 地元の特産品販売所を併設(めがね・漆器・野菜 等)
- ・ チャレンジする人が利用しやすい仕組みづくり(出店者の利便性に配慮)
- ・ 昭和レトロ風にし、看板等にもこだわる



湯けむり横丁(あわら市)

⑤ 公共交通の相互連携

【現状】

- ・ 鯖江は東西に長いが、コミバス以外交通手段はない
- ・ 新幹線開業後、鯖江駅発着の特急が廃止される
- ・ 鯖江には、新幹線駅は設置されない
　　<最寄駅> 福井駅、南越駅(仮称)

【課題】

- ・ 早朝、夜間のJRや福井鉄道に接続するバスがない
- ・ 南越駅（仮称）に向かう交通機関がない

【提言】

- ・ 南越駅（仮称）への福井鉄道による直行バスの運行
　　→ 鯖江駅、武生駅
- ・ 南越駅（仮称）に無料の大型駐車場整備（越前市への働きかけ）
- ・ 三セク化される並行在来線に快速電車を走らせる
　　→ 福井駅発の「新幹線」、敦賀駅発「しらさぎ」に接続
- ・ JR北鯖江駅を、鯖江をイメージさせる特徴ある駅にリニューアル
- ・ コミュニティバスの相互乗り入れ



⑥ わかりやすく効率的なバス路線網の構築

【現状】

- ・ 鯖江のコミバスは、きめ細やかで高齢者にやさしいバスである
- ・ 路線が複雑で、わかりにくい
- ・ バス車両が足りない

【課題】

- ・ 運行するバスの拡充（増台）
- ・ 目的地までの速達便の運行
- ・ 観光客を対象としたバスの運行



【提言】

- ・ JR鯖江駅西にすべてのバスの拠点となるバスターミナルを設置
- ・ 市内10地区に拠点を設け、そこから「急行バス」を運行
- ・ 早朝便、夜行便の運行（通勤・通学）
- ・ わかりやすいバス運行とするため、バスを増やし、1路線1台で運行
- ・ 観光施設を巡るバスの運行

⑦ ICカードシステムの導入

【現状】

- ・ コイン対応のみ
- ・ 障がい者等へは無料乗車券を発行

【課題】

- ・ 高齢者への浸透
- ・ 利用者促進
- ・ カード作成にかかる費用負担

【提言】

- ・ コミバスに多機能型のカードを導入（JR、福井鉄道、コンビニ、商店街等と連携）
- ・ カード以外にもメガネにICチップを埋め込む等、鯖江オリジナルな方法での料金等の決済も可能にする
- ・ カードにより乗車人数、乗車便、運賃の管理（無料者の把握）
- ・ コミバスのダイヤ見直しに活用



▲ 富山市のICカード

【7】おわりに

- ◆ 昨年度の懇話会では、「まちづくり」、「公共交通」、「産業と観光」、「その他」という視点から、敦賀開業に向け、今後検討すべき事項を整理した。なかでも公共交通については、本市の地域特性、活性化に向けた課題、そして新幹線開業後に特急が停車しなくなるという動かしがたい事実を踏まえ、早急にその対策を講じる必要がある。そこで今年度の懇話会部会では、「公共交通を活かした鯖江のまちづくり」というテーマについてワークショップ形式にて熟議を重ねた。公共交通を軸に、まちづくりや産業と観光へと展開し、その結果をとりまとめたのが、本報告である。
- ◆ 7項目に分類された提言は次のように再整理できる。
 - ◇ 3拠点をまちづくり拠点として強く位置づける。
 - ①JR鯖江駅周辺へのテコ入れ ②西山公園の観光面からの強化
 - ③中心市街地のコンパクトシティ化 ④思い切ったまちなか投資
 - ◇ まちづくり拠点と市内各地をスムーズに結ぶ。
 - ⑤総合交通体系の再構築 ⑥コミュニティバスの充実 ⑦公共交通のIT化の推進
- ◆ これらには、今すぐ短期的に実現すべきものから中長期的に取り組むべきもの、あるいは投資金額がわずかなものから相当額に上るもの、そして行政がリーダーシップを執って行うものから事業所や市民との協働で行うべきものまで、様々なものが含まれている。まずは、次年度以降に取り組む事業、なかでも地域公共交通網の形成に向けた計画への反映を期待するとともに、本提言をもとに市民の中で様々な議論が一層活発化することを願ってやまない。

新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会 部会 アドバイザー
福井県立大学 地域経済研究所 講師 江川 誠一